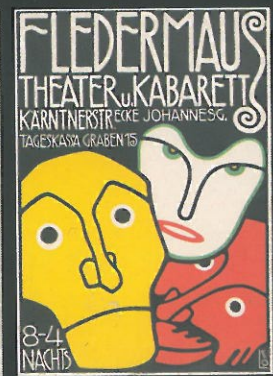
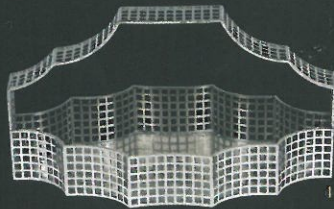


ウィーン世紀末 それは新たな始まりだった——

19世紀末、ハプスブルク帝国が終焉に向かう頃、芸術においても新たな時代を求める動きが起こり、装飾性豊かな世紀末芸術が、絵画や建築、応用芸術、ファッションなど様々な分野で花開きました。本展は、モダンデザインへの萌芽とも言えるビーダーマイヤー時代の銀器や絵画から世紀末芸術を代表するクリムトやシーレ、オットー・ヴァーグナー、アドルフ・ロース、ウィーン工房に至るまで、約400点の作品により、ウィーン世紀末の華麗なる芸術世界とその革新性を紹介します。



1. エゴン・シーレ
《自画像》1911年
2. グスタフ・クリムト
《パラス・アテナ》1898年
3. ヴェルヘルト・ヘンレ
ウィーン工房
《ティーセット》1920年頃
4. ヨーゼフ・ホフマン
ウィーン工房
《バスケット》1910年
5. マクシミリアン・クルツヴァイル
《黄色いドレスの女性》
1899年
6. エゴン・シーレ
《ひまわり》1909年
7. ヘルトルド・レフラー
《キヤバレー・フリーゲーター・ワウスの
のポスター》1907年
8. ヨーゼフ・ホフマン
ウィーン工房
《フロート》1908-1910年
9. オットー・ヴァーグナー
《カール・レーガー市長の
ための椅子》1904年
10. 3,5,7,9 ウィーン・ミュージアム
①Wien Museum
4,8: 個人蔵

